

令和 2 年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

<基本目標>

思いやりの心と自ら学び，正しく判断できる力をもった，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

<具体目標（具体的な児童像）>

ア 自ら学ぶ子（知育）

自ら学び，自ら考え，判断し，主体的に問題を解決する能力を養う。

イ 思いやりのある子（徳育）

他を思いやる心や感動する心など，豊かな心を養う。

ウ たくましい子（体育）

たくましく生きるための心身の健康と体力を養う。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校が果たすべき役割は，一人一人のもつ能力を伸ばしつつ，社会において自立的に生きるための基礎を培うことである。そのため，保護者や地域，教育関係諸機関との連携・協力を深めながら，児童の心を動かし，知・徳・体それぞれの発達に向けた教育を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）心を動かす教育の推進

児童一人一人の発達を主眼に置きつつも，望ましい集団づくりを目指した協働的な教育活動を計画・実践するとともに，主体的で対話的な深い学びをとおして，児童自らが疑問をもち，感動や納得が得られるものとなるよう努める。

（2）取組の成果が自覚できる教育の推進

児童自身が判断・行動したり，児童が自らを鍛えたりしたことで得られた成果を，認め励ますとともに，互いに感謝の意を伝えることの習慣化に努め，自己肯定感の涵養を図る。

（3）児童の発達を共に促す適正な環境づくりの推進

- 地域や保護者への情報提供と，地域の教育力を生かした取組の推進に努める。また，教職員が一人で悩みを抱え込むことなく組織的に取り組むためのチーム力を高めるとともに，緩急のある働き方を進め，教職員の勤務時間の適正化を図る。

〔旭地域学校園教育ビジョン〕

「地域に愛される旭っ子」

地域社会の一員としての役割や責任を自覚し，家族や友人，地域の人々への感謝の気持ちを持ち，思いやりをもって接するとともに，元気にあいさつし，ルールやマナーを守るなどの社会性を身に付け，進んで身の回りの人々や地域のために奉仕的に行動できる子ども

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学校教育法施行規則，地方教育行政の組織及び運営に関する法律，小学校学習指導要領，とちぎ教育振興基本計画2020（教育ビジョンとちぎ），第2次宇都宮市学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン），第2次宇都宮市学校教育スタンダード等を充分ふまえて教育課程を編成する。
- （2）本校の教育目標及び学校経営の方針，努力点等に基づき，さらに地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分考慮して，知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成が図られるように教育課程を編成する。
- （3）確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できるように教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

「心を動かす」をキーワードとした主体的・協動的な教育活動を進める。

【学校運営】

児童が様々なことに自ら挑戦したり、自分のよさを発揮しながら集団をよりよいものにしたりとできる教育活動の推進

【学習指導】

○主体的で対話的な深い学びをとおして学ぶ喜びや楽しさを実感できる心動かす授業の継続的实践と、学力調査の結果を生かした全校的取組、とりわけノート指導の充実

【児童生徒指導】

○ 思いやりのある子の育成。基本的な生活習慣や正しい判断力を身に付け、相手を思いやり互いに協調しながら学校生活の向上に努めることのできる児童の育成と、自治的活動等をとおした望ましい集団づくりの推進

【健康（体力・保健・食育・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）

自分の体に関心を持ち、進んで健康・体力の向上を目指す児童の育成（教科体育における苦手運動の補強、特別活動を活用した体力づくりへの主体的取組の充実、発達段階に応じた保健指導の充実 等）

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価							
目指す児童の姿	<p>A1 <u>児童は、進んで学習に取り組んでいる。</u></p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① <u>毎時間の授業の中で、学習のめあてを明示することで、児童が進んで学習に取り組めるようにする。</u></p> <p>② <u>児童が授業中に自信をもって話ができるよう、学年の発達段階に応じた話し方や聞き方の指導を行う。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>90.1</td></tr> <tr><td>児童</td><td>91.1</td></tr> </table> <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、指標を10ポイント以上、上回る。</p> <p>【次年度の方針】 今年度は、感染症対応を考慮して、全体での発表が中心だったため、大人数の中で話すのが難しい児童もいた。 次年度は、少人数の話合いの機会も多く設けるようにし、自信をもって話ができるように指導していく。</p>	教職員	100	保護者	90.1	児童	91.1	
	教職員	100									
保護者	90.1										
児童	91.1										
<p>A2 <u>児童は、思いやりの心をもっている。</u></p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>① <u>帰りの会等で、友達のよさを認め励まし合う活動を取り入れることで、互いに思いやりのある行動をしようとする雰囲気高める。</u></p> <p>② <u>「やなげフェスティバル」などの縦割り班活動や、「ありがとうの会」などの行事を通して、友達や地域の方々への感謝をもち、思いやりの心の育成を図る。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>88.4</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>児童</td><td>87.5</td></tr> </table> <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。</p> <p>【次年度の方針】 児童会活動では、5・6年生の活躍の場を多く設け、学校のリーダーとしての自主性を育て、高学年としての自覚を育てる。 実施が難しい中でも工夫し、児童が主体的に活動できるようにすることで、おもいやりの心を育む。</p>	教職員	100	保護者	88.4	地域住民	93.8	児童	87.5
教職員	100										
保護者	88.4										
地域住民	93.8										
児童	87.5										

A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。

【数値指標】

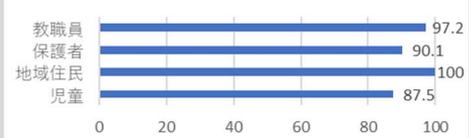
全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活している」

⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上

① 「「築瀬小学習のきまり」を活用し、学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・返事・片付け等、学習を支える技能や態度の徹底指導に努める。

② 「「築瀬小よい子の一日」を活用し、学校生活のきまりについて教職員が同一歩調で継続的な支援に努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。

【次年度の方針】

今年度と同様の指導を続け、必要に応じて生活目標と関連付けて指導の徹底を図る。

今年度、基本的な生活習慣が身に付いてきている。今後もきまりやマナーなどを守れるように、場面に応じて、引き続き指導を行う。

「やなせ小のきまり」を活用し、全職員共通理解の下、指導支援を充実させていく。

次年度も引き続き「立腰」に取り組み、落ち着いて学校生活を始められるように努めていく。

B

A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】

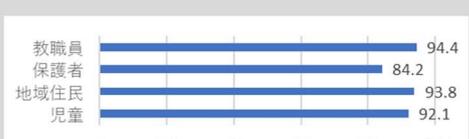
全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」

⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率 80%

① 年間を通して「心のこもったあいさつ運動」を設定し、「あいさつ運動」で、意識づけを図り、代表委員や学年交代によるあいさつを推進する。

② 登下校時等校外においても元気にあいさつできるよう、保護者・地域・中学生・旭地域学校園教職員などと連携を図り、あいさつ運動を実施する。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。

【次年度の方針】

全職員の共通理解のもと、教職員が率先してあいさつをし、習慣化を図る。

あいさつ運動を年間通して行い、児童自身があいさつする大切さや気持ちよさを体感し、あいさつの日常化を図る。感染症対応で大きな声に出してあいさつができない分、会釈について指導してきたことを次年度も引き続き指導していく。

B

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】

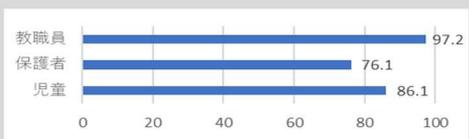
全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」

⇒児童の肯定的回答率 80%以上

① 毎時間の授業で学習のめあてや流れを明示し、最後まであきらめずに学習に取り組む態度の育成を図る。

② 学習や運動で、自分の取り組みへの継続的な頑張りや伸びが分かるように、カード等の活用を図るとともに、頑張っている児童の称賛を図る。

【達成状況】



教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者においては、指標を3.9ポイント下回り、教職員と保護者に21.1ポイント差がある。

【次年度の方針】

次年度は、今年度の取組を継続し、学校での頑張り可能な限り保護者に伝えられるようにしていく。

B

A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】

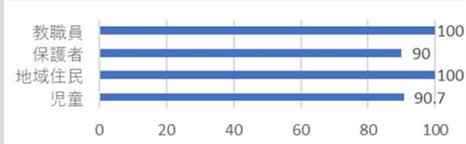
全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」

⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 感染症等の予防のため、手洗いうがいの励行を推進し、また、自主的にマスクをしたり換気をしたりする意識を高める。

② 安全面に気を付けて生活できるよう、登下校の際の安全な歩き方や、学校生活全体で危険を考えて危ない行動をとらないような意識を育てる。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は、指標を上回り、教職員、地域住民は100%だった。

【次年度の方針】

児童一人一人が健康や安全な生活を意識し、自ら正しい行動ができるよう、今後も継続して指導や声掛けを行う。

交通安全面については、指導事項が発生したタイミングで声掛けをしてきたが、今後も継続していく。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。

【数値指標】

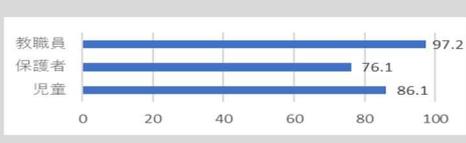
全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」

⇒児童の肯定的回答率 80%以上

① 生活科や総合的な学習の時間、社会科や道徳科等の授業で、自分自身を振り返る時間や、自分がどう生きていきたいかを考える時間を設ける。

② 地域のよさに触れたり、身近なニュース等に関心をもたせたりすることで、社会に貢献しようとする意識を育む。

【達成状況】



教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者においては、指標を3.9ポイント下回り、教職員と保護者に21.1ポイント差がある。

【次年度の方針】

道徳や総合的な学習の時間の充実を図り、生き方を考える時間をしっかり確保していく。さらに、児童が自分の将来を考える時間を意図的に設け、活動の工夫を図る。

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

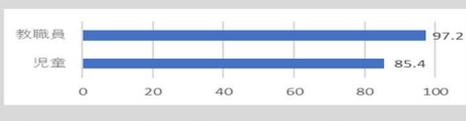
全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」

⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上

① 英単語を使った活動や、先生や友達とのコミュニケーションを通して、会話をするための英語表現に慣れ親しめるようにする。

② 授業に限らず、階段や各教室等の掲示物を通して、児童が日常の生活の中で英語に触れる機会を増やし、正誤は問わず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

【達成状況】



教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、児童と教職員に11.8ポイントの差がある。

【次年度の方針】

英語に触れる機会を増やす取り組みは効果的だったので継続していく。

授業で英語を使って意味のあるやり取りをする大切さを理解させた上で、児童が英語を使う活動を増やすなどして、コミュニケーションを行った実感がもてるように支援していく。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

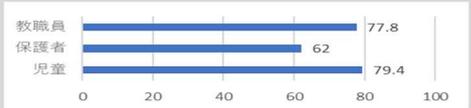
全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」

⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上

① 生活科や総合的な学習、社会科の学習で、地域や宇都宮の歴史や有名な場所を調べる学習を行うことで、宇都宮についての知識を深める。

② 築瀬地区や宇都宮市に昔から伝わる伝統的な行事や、新たに企画されたイベントに参加することで、人とのつながりや行事のよさを知らうとする態度を育成する。

【達成状況】



すべての対象において、指標を達成せず、保護者は18ポイント、指標を下回る。

【次年度の方針】

保護者に向けて、学校だより、学年だより、懇談会等で、学習内容について継続的に情報を発信していく。

予定していた各行事に可能な限り参加することで、人とのつながりを深く考える機会を確保する。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】

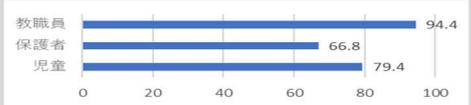
全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」

⇒児童の肯定的回答率 80%以上

① 図書室・パソコン室の計画的利用やデジカメを使う機会を意図的に設ける等を通して、児童のICT機器の活用技術を高められるようにする。

② 調べたことや自分の考えをまとめる際、ICT機器を活用し、書く力の向上を図る。

【達成状況】



教職員の肯定回答は、指標を上回ったが、児童の肯定回答は、指標と同程度、保護者は、指標を13.2ポイント下回り、教職員と保護者に27.6ポイント差がある。

【次年度の方針】

GIGAスクールの開始に向け、まず教職員がICT機器を活用できるようにするとともに、児童への指導を通して、保護者にICT機器の活用状況を発信する。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。

【数値指標】

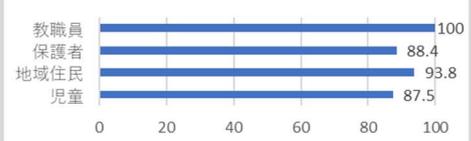
全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 築瀬コミュニティーセンターでの交流会やふるさと教室、運動会などの学校行事などにおいて、感謝やいたわりの気持ちをもって接することができる態度を育成する。

② 敬老会で地域の高齢者に手紙を書く活動を通して、下校の際の見守りや環境整備などへの感謝の気持ちを表現する力を育てる。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。

【次年度の方針】

次年度も学校行事や登下校、地域の行事等での活動の機会を通して、児童に高齢者に対する感謝やいたわりの心を育てていく。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている」

⇒児童の肯定的回答率 80%以上

① 各種委員会の活動を通して、全校生で古紙やペットボトルキャップの回収を行ったり、日々の生活の中での節電や節水を心掛けたりすることで、環境を大切にしようとする意識を高める。

② 社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。

【達成状況】

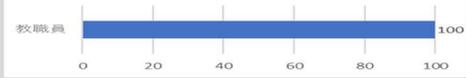
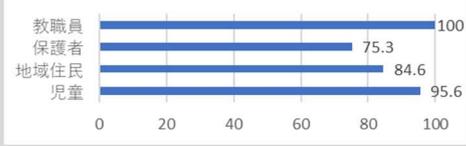
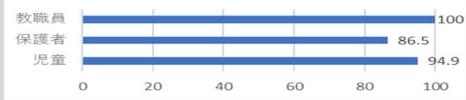


児童の肯定回答は、指標を上回ったが、教職員の肯定回答は、指標を21.7ポイント下回り、児童と教職員に24.1ポイント差がある。

【次年度の方針】

「持続可能な社会」に向けて学校で行っている活動について、各委員会による集会や朝会、掲示物を通して周知を行い、児童の関心を高めていく。

社会科や家庭科等での学習も、学校で行っている活動と関連させて考えるよう指導していく。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。</p> <p>② 教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームやレインボールームの活用を検討する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> </table> <p>教職員の肯定回答は、指標を達成し100%である。</p> <p>【次年度の方針】 習熟度別学習の実施、かがやきルームやレインボールームの活用、支援会議等の実施をとおして、児童理解と授業支援の両面から支援する場を適切に設け、継続的に指導に役立てていく。</p>	教職員	100					
	教職員	100								
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① いじめゼロ強調月間での取り組みを通し、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童の悩み等をきめ細かに把握し解決を図る。</p> <p>② 学級懇談時や学年便り等を通し、学校の取組を保護者に伝え協力を得るとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、強い意志をもって指導に当たる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>75.3</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>84.6</td></tr> <tr><td>児童</td><td>95.6</td></tr> </table> <p>教職員、地域住民、児童の肯定回答は、指標を上回り、教職員と児童においては10ポイント以上上回ったが、保護者においては、指標を4.7ポイント下回る。</p> <p>【次年度の方針】 いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、家庭にどのような活動をしているかを知らせたり、児童への指導に関する情報を積極的に伝えたりする工夫を行う。 特に保護者の肯定的回答の割合が低いことから、次年度も標語作成や家庭に通信配付をしていく。 今年度は懇談会等で直接保護者に伝えることが困難だったが、次年度は継続してこれらの取組を行い、保護者の協力を得ていく。</p>	教職員	100	保護者	75.3	地域住民	84.6	児童
教職員	100									
保護者	75.3									
地域住民	84.6									
児童	95.6									
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってかれている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 児童間のよりよい関係づくりのために、Q-U や教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。</p> <p>② 欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。</p>	<p>【【達成状況】】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>86.5</td></tr> <tr><td>児童</td><td>94.9</td></tr> </table> <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。</p> <p>【次年度の方針】 児童が抱える問題について早期発見に努めたり、関係機関等と連携を図ったりしながら、それぞれに適したアプローチを継続的に行っていく。</p>	教職員	100	保護者	86.5	児童	94.9		
教職員	100									
保護者	86.5									
児童	94.9									

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。

【数値指標】

全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」

⇒教職員の肯定的回答率 80%以上

① 外国人児童等の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。

② 教材研究を進め、児童一人一人に合った学習支援を実施するとともに、必要に応じてレインボールームの活用を検討する。

【達成状況】



教職員の肯定回答は、指標を達成し100%である。

【次年度の方針】

外国人児童等に必要な支援や手立てを考えて接することができたので、継続していく。

外国にルーツがある児童のうち、レインボールームを利用している児童については共通理解を図れるようにする。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。

【数値指標】

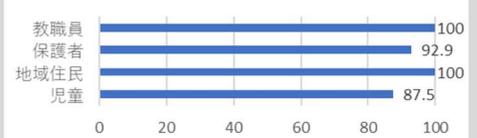
全体アンケートの「私は今の学校が好きです」

⇒児童の肯定的回答率 90%以上

①児童一人一人の話をよく聞いたり、帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を設定したりして、互いに認め合
まし合う集団づくりを図る。

②やなげフェスティバル、ふれあい活動、
ありがとうの会、音楽集会等様々な活動を充実させることで、達成感や
成就感、思いやりの心を育む。

【達成状況】



教職員、保護者、地域住民の肯定回答は指標を10ポイント以上上回ったが、児童は2.5ポイント、指標を下回る。

【次年度の方針】

更に、教職員が児童の良さを認めるような言葉かけを意識して伝えていく。

今年度は児童が集まって活動することができなかったため、達成感や成就感などの肯定回答が低くなったと考えられるが、次年度は、制限された中でも集会の持ち方を工夫し、児童が達成感を味わえるようにする。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】

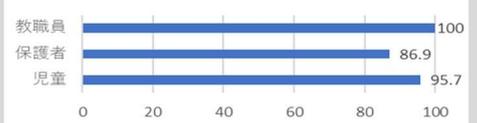
全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」

⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上

① 校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。

② 今年度の学校課題「一人一人が主体的に取り組み、学び合う授業づくり～基礎・基本の定着と深い学びを求めて～」を図るために、少人数指導やTTによる学習等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう工夫する。

【達成状況】

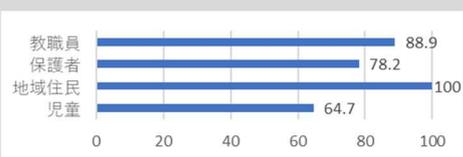


すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。

【次年度の方針】

今年度はブロック内での授業、意見交換が大部分であったので、次年度は、もっと広く授業を見合ったり、意見を交換し合ったりしながら授業力の向上を目指す。

少人数指導やT・Tによる指導等を継続し、保護者には、お便りや懇談会などを通じて、取組状況を紹介する。

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>① 学校図書館司書,ALT と事前打合せや事後の振返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。</p> <p>② かがやきルーム指導員, スクールカウンセラーとのコミュニケーションをとる時間を設定することで、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員の肯定回答は、指標を達成し100%である。</p> <p>【次年度の方針】 今年度、空き時間や放課後を利用して打ち合わせ時間を確保することができ、今後も継続していく。 今年度同様、担任とかがやきルーム指導員, スクールカウンセラーが懇談する時間を設定する。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 学校行事や児童会行事, 学年行事ごとの反省をもとに、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善を図る。</p> <p>② 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎月、学校全体または学年でリフレッシュデーを設定し、時間を意識しながら勤務する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員の肯定回答は、指標を26.1ポイント下回る。</p> <p>【次年度の方針】 学校・学年・児童会等の行事について、今年度は感染症対応を考慮しながら計画・実施したことをもとに、有効だったことや改善の必要があることを次年度の計画に生かし、実施していく。 教材研究や児童と向き合う時間をより多くもてるよう、学年退勤日を学年ごとに設定し、実行していくことは継続していくとともに、年度の前半で有効な時間のもち方のミニ研修等を実施する。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① <u>小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。</u></p> <p>② <u>卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。</u></p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員, 地域住民の肯定回答は、指標を上回り, 保護者は1.8ポイント, 児童は15.3ポイント指標を下回る。</p> <p>【次年度の方針】 児童・生徒の情報交換, 学習内容・指導法等の理解, 中学校進学への不安の軽減を図っていく。</p>

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

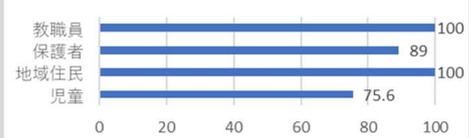
全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上

① 地域の学習素材や人材を積極的に活用し、地域の方々とふれあいながら授業や活動を行うことを通して、主体的に生き方を学ぶ児童の育成をめざす。

② 地域内の幼稚園との生活科の授業での交流会や、運動会等の学校行事を通して、幼稚園との連携を強化していく。

【達成状況】



教職員、地域住民の肯定回答は、指標を上回り、教職員と地域住民においては100%だったが、児童は14.4ポイント、保護者は1ポイント指標を下回る。

【次年度の方針】

今年度は、感染症対応のため人材の協力を得た授業の実践が十分できなかったが、次年度には、キャリア教育との関連を図り、人材活用の授業の計画を立てる。

今年度は、感染症対応のため交流が全くできなかったが、次年度は可能な限り工夫・改善しながら交流していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。

【数値指標】

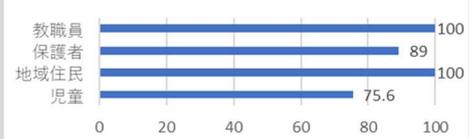
全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上

① 築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。

② 出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。

【達成状況】



教職員、地域住民の肯定回答は、指標を上回り、教職員と地域住民においては100%だったが、児童は14.4ポイント、保護者は1ポイント指標を下回る。

【次年度の方針】

今年度は感染症対応のため、地域の活動はほとんど実施できなかったが、次年度は可能なことや可能な手段を共に見出し、実施していく。

出前授業や夢授業は、回数を減らす、広い会場に変更する、人数を減らすなどして実施したことで効果が上がったため、次年度も感染状況を見ながら、工夫して出前授業や夢授業などを行い、キャリア教育の充実を図る。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

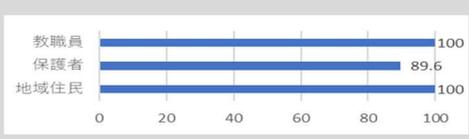
「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 教職員による毎月1回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。

② 長期休みや行事前の特別清掃・PTAによる親子奉仕活動・毎月行っている教職員による環境点検等、整った環境づくりに向けての活動を実施する。

【達成状況】

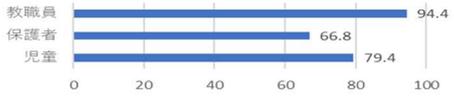


すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員と地域住民においては100%だった。

【次年度の方針】

定期点検や日常の点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、安全に配慮した環境づくりをしていく。

長期休み前や行事前の特別清掃など意欲的に取り組めるよう計画実践していく。

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① ICT機器や図書等を活用して課題を調べる機会を設定し、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>② 図書購入計画を立てる際、児童や教職員からの要望や、基準数との比較をもとに、活用のために必要な図書の選定を行う。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員の肯定回答は、指標を上回ったが、児童においては指標と同程度、保護者においては13.2ポイント下回る。</p> <p>【次年度の方針】 タブレットに関しては、教職員が積極的に研修に参加し、授業への活用を図れるようにしていく。 児童からのリクエスト図書の購入を次年度も継続するとともに、新着図書の他、学習で使用した図書や学習状況等を図書だよりに載せ、保護者への周知を図る。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B1 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%</p>	<p>① 保護者との信頼関係が保てるよう、児童のよい面やよくなったこと、できるようになったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者にこまめに伝えるよう努める。</p> <p>② 児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」を行い、組織を機能させ、家庭と連携しながら解決に当たる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。</p> <p>【次年度の方針】 児童のよさを見取り、連絡帳や電話で伝えることを、継続して行う。 問題行動に対しては、迅速な対応ができるよう「報・連・相」をさらに徹底するとともに、全職員で共通理解し、家庭との連絡を密に図りながら組織的に対応し、支援を行っていく。</p>
	<p>B2 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う」 ⇒児童の肯定的回答率 90%</p>	<p>① 児童が居がいのある学校生活を送るために、また児童同士の信頼関係に満ちた温かい学級で過ごせるために、認め励まし合える学級経営を充実させる。</p> <p>② 毎時間の道徳の授業を充実させ、よりよい学校生活、集団生活の構築に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。</p> <p>【次年度の方針】 これまでの取組を継続するとともに、保護者にも学級の様子を懇談会や必要に応じて随時伝えていく。 次年度も1回1回の道徳の授業を充実させ、児童同士の関わりを深め、学校生活においてよりよい人間関係を作る。</p>

B3 思いっきり遊んだり、自分の健康に対する関心を深めたりして、健康的な生活をしている。

【数値指標】

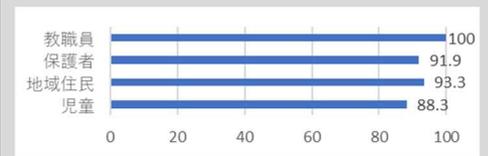
全体アンケートの「自分は、休み時間等思いっきり遊んだり、自分の健康に関心をもったりして生活をしている。」

⇒ 児童の肯定的回答率 80%以上

① 校庭での遊びの約束を守り、「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを奨励する。

② 保健だよりを毎月1回発行して、健康・衛生面を含め、健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。また、養護教諭と連携を図った保健学習を計画的に実施し、充実させていく。

達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。

【次年度の方針】

ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを継続的に奨励する。

休み時間の外遊びに関して、運動委員会を中心に声をかけるなどの働きかけを行う。

次年度も継続して保健だよりを毎月発行し、保護者や児童に向けて正しい情報を発信していく。

保健学習に関して、担任と養護教諭の連携を密にし、計画的に実施していく。

B

B4 基礎的・基本的な学力を身に付け、学習の習慣化を図っている。

【数値指標】

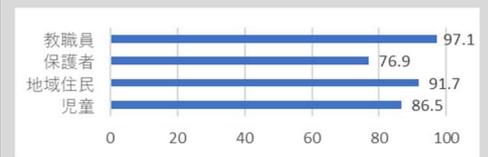
全体アンケートの「自分は、漢字や計算の仕方等を正しく覚え、宿題や自主学習をやっている」

⇒ 児童の肯定的回答率 80%以上

① 教材研究を進めて分かる授業の実践に努めるとともに、朝の学習や日々の授業、宿題等で計画的に基礎内容の学習に繰り返し取り組ませ、定着を図る。

② 学年便りや学級懇談会等を通して、継続的に家庭の協力を得ながら学年に応じた宿題を与えたり、自主学習の奨励を行ったりすることで、家庭学習の習慣化を図る。

達成状況】



教職員、地域住民、児童の肯定回答は、指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上上回ったが、保護者の肯定回答は、指標を3.1ポイント下回る。

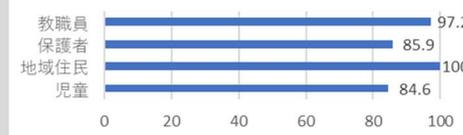
【次年度の方針】

テスト等の結果から、定着が不十分な学習内容を把握し、朝の学習の時間にその内容のプリントに取り組ませるなどして習熟を図る。

日々の授業では、児童の振り返りから本時のめあてが達成されているかを見取り、一人一人に応じた支援をしていく。

次年度も家庭学習の記録用紙を活用し、宿題や家庭学習に進んで取り組めるようにしていく。保護者には、学年だよりや懇談会等を利用し、家庭学習への協力をお願いする。

B

<p>B5 読書活動の充実に努め、心豊かな児童の育成に努める。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、自分たちのために、学校や家庭で楽しく読書できるよう、工夫している」⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<p>① 本に親しむ心を育むために、読書記録カードの活用、校内読書タイムの充実のために、ボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介等の「読書大好き運動」を推進する。</p> <p>② 家庭での読書の習慣化を図るために、学校図書館便りの発行や親子読書の推奨等に努める。</p>	<p>達成状況】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.9</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>84.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員、地域住民の肯定回答は、指標を達成したが、保護者4.1ポイント、児童は5.4ポイント指標を下回る。</p> <p>【次年度の方針】 今年度は感染症対応から様々な制約ができてしまったが、次年度も感染症対応を考慮しつつ、ボランティアの協力を募る等の対策を取りながら、できるだけ児童が本に触れ合えるような場を設定していく</p>	対象	達成率	教職員	97.2	保護者	85.9	地域住民	100	児童	84.6
対象	達成率											
教職員	97.2											
保護者	85.9											
地域住民	100											
児童	84.6											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1 目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 「目指す児童の姿」に関する質問14項目中11項目で数値指標を達成した。 「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」「夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している」について、教職員と保護者の肯定的回答割合を比べると、97.2%、76.1%と21.1ポイントの差がある。めあてに向かって努力し達成感を味わったり、友達や家庭、地域のためにできることを見つけて実践する意欲を高めたりする必要がある。学校だけでなく、保護者や地域との連携が不可欠である。 「ICT機器や図書等の学習への活用」について、教職員と保護者の肯定的回答割合を比べると、94.3%、66.8%と27.6ポイントの差がある。学校ではICT機器について調べ学習での活用のほかに、デジタル教科書の利用、プログラミング教育や文書の打ち込み、授業内容の録画など幅広い活用が行われている。図書等の活用について、学校図書室の利用のほか、市立図書館からの学年借り入れなど、調べ学習を中心に学習への活用が行われている。学年だよりやホームページを活用して、保護者にも活用の実態を広めていく必要がある。 「持続可能な社会への関心」について、児童と教職員の肯定的回答割合を比べると、82.4%と58.3%と24.1ポイントの差がある。教職員も環境について更に意識をもち、社会科や総合的な学習の時間の他に、給食や日常生活においても持続可能な社会への関心をもてるような教育に心がけていく。 数値指数を達成していない項目は、「宇都宮のよさ」「ICT機器や図書等の学習への活用」についての2つである。児童が宇都宮の良さに気づき、その良さを維持し継続していくために、社会科や総合的な学習の時間（宇都宮学）、生活科などの計画を見直し、授業の展開に生かす。 ICT機器の活用をさらに高められるよう、使用場面を増やしたり、次年度から本格的に活用になる1人1台の端末を授業で効果的に活用できるよう、教職員も研修を行ったり情報共有を行ったりする。 <p>2 目指す学校の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 「目指す学校の姿」に関する質問16項目中12項目で数値指数を達成した。その中でも、複数の対象において肯定的回答が90%を超えるなど顕著な項目は、次の4つである。 「<u>実態に応じた適切な支援</u>」（2項目）「<u>教職員の協力した業務への取り組み</u>」「<u>児童を大切にする学級経営</u>」 教職員間の共通理解を図り、連携し、必要に応じてかがやきルームやレインボールーム等の検討を行い、児童一人一人の状況に応じた支援が継続的に行われている成果と考える。 数値指標を達成していない項目は、次の4つである。 「<u>いじめに対する指導</u>」「<u>学校が活気ある明るい雰囲気</u>」「<u>業務の効率化</u>」「<u>小中一貫の取り組み</u>」 「いじめが許されない行為であることの指導」に関して、教職員・児童に関しては数値指標を達成しているが、保護者は数値指標を下回っている。児童と保護者の間に20.3ポイントの差が見られ、保護者には指導内容を丁寧に説明していく必要がある。 「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」に関して、児童の数値指標は2.5ポイント達していない。今年度、感染症対応のための2か月の休校後、指導内容の重点化や学校・学年・児童会等の行事が中止または縮小の方向での実施になったことも原因の一つに挙げられる。次年度は、教育課程の更なる改善を目指し、精選された中で、行事をととして児童を育てる時間の確保に努める。
--

- ・ 「業務の効率化」について、優先順位を付けて業務に取り組み、教材研究や児童との関わる時間を十分確保できるようにする。また、校内の協力・協働体制をさらに充実させるために、教職員間の情報共有を進める。
- ・ 「小中一貫の取り組み」について、行事での中学生ボランティア依頼等が全くできない1年だったが、あいさつ運動や6年生への乗り入れ授業など実施できたものもあり、その効果も見られた。教職員の小中一貫の組織を見直すと同時に、中学校とも連携しながら、可能な形での取組を行う方向で調整する。

7 学校関係者評価

1 全般的事項

- ・ 学習面について、感染症対応のため数々の制限がある中、教職員の皆様が子供たちのために、知恵を出し、技術を出し、運営されていることに感謝するとともに、児童とても落ち着いて授業に取り組んでいる姿を見られた。
- ・ 健康・体力面について、教室の換気を良くしているが、寒くなるので児童が心配である。また、密を避けて学校生活を送ったり、行事が中止になったりして、児童の運動量が少ないのが気になる。
- ・ 環境面について、荷物の置き場が気になる。

2 項目別事項（市の肯定的回答割合を下回っているもの2つを中心に）

- ・ 「児童が誰に対しても思いやりの心をもって接している」について、市の平均を2.5ポイント下回った。今年度は地域の行事の中止が相次ぎ、地域の方々と児童が直接接することの非常に少ない1年だったことが、主たる原因かと思われる。学校教育活動の中で、地域の方々など周りの方々の支えがあって様々な行事が行われたり、安全が確保されていたりすることについて知らせ、感謝の気持ちをもつとともに、学校内外で誰に対しても思いやりの心をもって接することができるよう指導していく。
- ・ 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」について、いじめ防止対応の日々の取組や児童会が中心に行っているいじめ根絶集会、未然防止のための年2回行っている教育相談やいじめアンケートの実施と結果を受けての対応について地域協議会で説明したり、取組の様子について学校便りを通して地域への回覧で伝えたりする。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 児童一人一人を大切にする学級・学年経営を基に、一人一人が居甲斐のある、明るく活気ある学校づくりに努める。
- ・ 教職員間の「チーム築瀬」としての連携と、感染症予防の制限の中でも、家庭や地域・企業等との交流を深めたり、小中の連携を効率よく進めたりする活動をとおして、信頼される学校づくりに取り組む。
- ・ 学校教育への関心を高めるために、学校だより、学年だより、保健だより、食育だよりなどを発行したり、ホームページに行事等の様子を掲載したりして家庭や地域への情報を発信する。

【学習指導】

- ・ 学習意欲を高め、学力の定着が図れるよう、授業のめあて、見通し、自分の考え、学び合い、まとめ、振り返りを基本として、授業を展開する。
- ・ 1人1台端末を利用した新たな学び方の実施に伴い、教職員がより効果的な機器の活用法を模索しながら、研修等を活用して、児童の情報活用能力、課題解決力を育てる。

【児童生徒指導】

- ・ 思いやりの心を育てるため、日々の生活指導や学校行事、道徳や学級活動、縦割り班活動の充実を図る。
- ・ 規範意識を高めるため、時間やマナーを守ったり、進んであいさつができるような取組を設けたりする。
- ・ 定期や随時の教育相談、いじめを許さないという日常指導、家庭との連携をとおして、いじめの未然防止や早期解決を進める。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 感染症予防対策のため、教室の換気や手洗い、うがいの励行、給食前の手指消毒、教職員やPTAボランティアによる施設・設備・備品の消毒の実施を継続的に行う。
- ・ 児童の体力向上、運動習慣の定着のため「健康体力チェック」や各種検定で、各自が目標を設定し、それらに向けて取り組める態度を育てる。